



高知大学
Kochi University

All roads *lead* to the future リード

Lead

コミュニケーションペーパー

2020 秋号
Autumn

No. 034

¥0

TAKE FREE

〈特集〉

〈特集1〉

人の思考や行動を
科学で解明する学び

〈特集2〉

コロナに負けない!
今、私たちにできること

Action! 地域×高知大学

次世代歯科医療
開発講座

男女共同参画推進室
しあわせぶんたん

がんばる先輩
大好きな高知で熱〜く
お笑いやってます!

Kochi University Topics

人の思考や行動を 科学で解明する学び

「人の心がわかる」といったイメージのある心理学。人文科学コースの心理学プログラムでは、この人気の学問を学べます。担当教員の日比野桂准教授、渡邊ひとみ准教授に心理学の楽しさと奥深さを聞きました。



人文社会科学部
人文科学コース

心理学 プログラム



一般的なイメージとは ひと味違う心理学の世界

悩みや辛さを解消するためのカウンセリング。犯罪に関わった人物の行動や特徴の予測などを行う犯罪心理学。性格や隠れた欲望を探る心理テスト。心理学と聞くと、これらのことを思い浮かべるかもしれません。しかし、学問としての心理学は、こうした一般的なイメージと必ずしも一致しないようです。

「心理学の研究者と話すとき、心を読まれそうなので怖い……とよく言われます」と苦笑する渡邊先生。「占みたいなことをやるんですか?」と聞かれることもあるそうですが、もちろん違います。「実際にはデータを数多く収集し、目に見える指標を扱い、統計によって人の思考

や行動の予測などを行います」

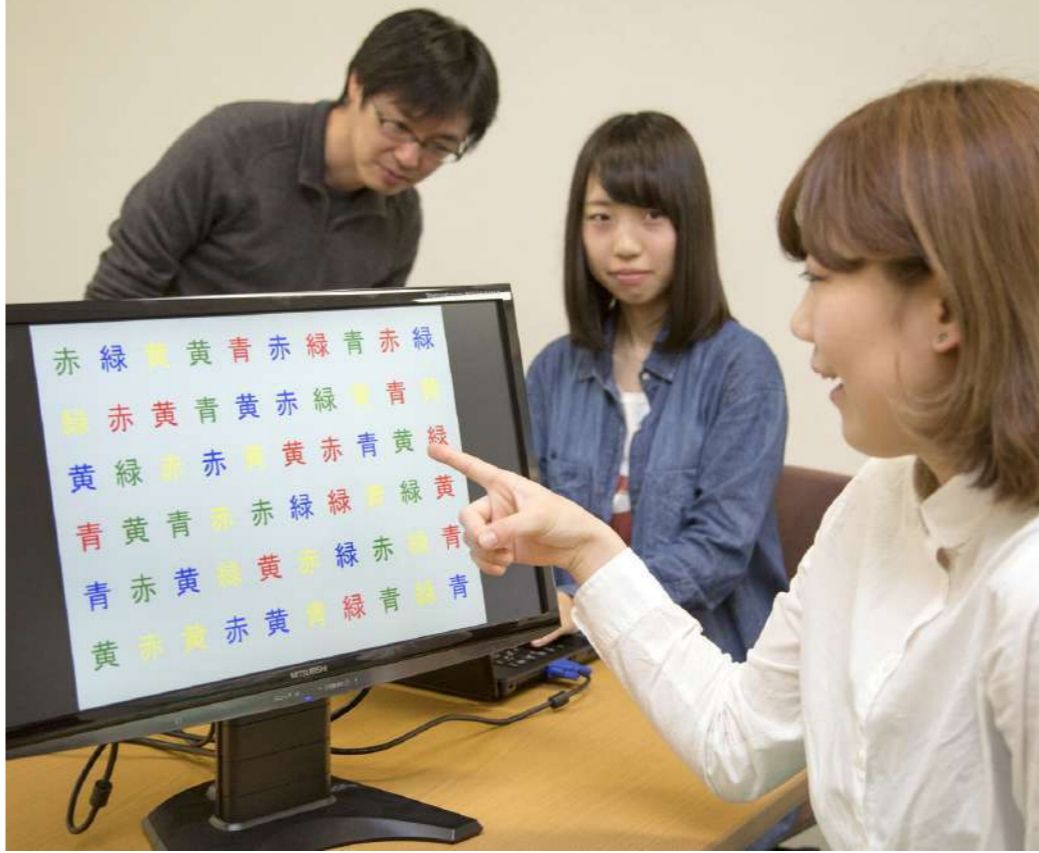
日比野先生も、広く思われているイメージとの違いを解説。具体的な個人を理解するために役立つのが心理学、といった捉えられ方をされているようですが、そうではないと解きます。「対象は個人ではなく、人全般。ある状況下では、多くの人はどう行動するのか、そしてそれはなぜなのか?といったことを調べる学問です」

心理学を学ぶと人の気持ちがわかるようになる、というわけではないようです。ただし、「研究や実験によつて、小さなことが少しずつわかり、そうした積み重ねによつて、ある状況下の人の気持ちがちよつとだけわかるようになる。それが心理学です。地道な積み重ねが大事な学問なんですよ」と日比野先生は仰います。

アンケートや インタビュー、 実験を駆使して研究

心理学にはいくつかの領域があり、渡邊先生の専門は発達心理学。子どもの発達プロセスを解明するための学問、といった捉え方をされがちですが、乳幼児から高齢者まで、さまざまな世代を対象に多くの研究が行われているそうです。

「私は青年期を中心に、特にアイデンティティの研究をしています。自分がいまままで何をしてきたか、何が向いているのか、人生で何をしたいのか。青年期にはこういったことを考えながら、自分らしさを確立していきます。大学生の時期は、ちょうどこの青年期に当たります」



授業では、主に乳幼児期から青年期までの間、愛着や社会性、道徳性などがどのように発達していくのかをレクチャーします。

日比野先生は感情心理学が専門領域。なかでも、他者に対する怒りについて研究を続けてきました。「もともとなぜ人は攻撃的・暴力的になるのかに興味があり、その前提となりやすい怒りを研究のテーマにしました。人は怒ったときに何を考えるのか、どういったことをするのかを調べて、怒りを鎮めるためにはどう行動するのが大事なのかといったことを研究しています」

授業では「感情心理学」などを担当。感情に関する心理学的な知識を掘り下げ、怒りや嫉妬といった個別の感情についても解説します。ダーウィンの「進化論」とからめた講義もあるとか。「進化論では、動物から人間まで、表情には連続性があると説いています。例えば、サル威嚇の表情は人間の怒りの表情につながっている。感情は生き残り戦略、命に関わる問題を早く解決するための手段なんです。危険を感じたら恐怖を覚え、すぐに逃げるのは、進化の中で必要な手段として残ってきたからですね」

研究の仕方については、渡邊先生の場合、主に質問紙を渡して答えて



もらい、加えてインタビューをすることも多いとか。「質問紙だけだと、こちらが設定した項目にしか答えてもらえません。補足的にインタビューも行うと、質問紙で得た知見について検証でき、抜け落ちていた視点からの答えも得ることがあります」

日比野先生の場合、質問紙による調査やインタビューも行いますが、実験することもあるそうです。「例えば、実験室で計算課題をしたあとに動物の映像をみせます。映像を見る前後のストレスを調べることや判定します。加えて、ときには心拍数や血圧を調べることもあります」

こうした幅広い方法でデータを集めて分析するのが、心理学の研究の進め方です。



心理学プログラムでは 基礎からしっかり学べる

近年、心理学は注目されている学問の一つで、新たに心理学部を新設した大学もあります。高知大学の心理学プログラムは、こうした他大と比べてどういった特徴があるのでしょうか。

「専門的な分野に興味がある学生も多いようですが、この心理学プログラムでは、応用よりも基礎的な部分を重視して講義や実験を行います」と日比野先生。「専門領域以外のさまざまな視点からも議論するので、幅広い思考と興味深い考察ができます」(渡邊先生)。「基礎をしっかり学んでおかないと、応用はできない」とのことです。

学生が心理学プログラムに進むのは2年生から。基礎的なことを1年間学んだ後、興味のある先生のゼミに入って研究に取り組みま

す。こうした学びのなかで、日比野先生は「論理的な考え方を身につけることができます。疑問点に関する、よく調べたうえで、本当かどうかを確かめる方法が身につく。新しい観点を得ることができると思います」

渡邊先生は別の方向から、「『知る』ということだけでも、心理学は価値のある学問だと思います。こういう場面ではこう考えることが多いという人間の思考や判断の傾向を知ると、自他の行動やその状況をより適切に読み取ることができま

す。また、それらの知識をさまざまな場面で応用することもできます。例えば、発達障害について学ぶと、周囲の人との関係について学ぶ

人文社会科学部人文社会科学科
(教育研究部人文社会科学系
人文社会科学部 准教授)

渡邊 ひとみ

群馬出身。同志社大学文学部卒業。博士(心理学)。同志社大学で5年間助教を務めたのち高知大学へ。今後は「シャーデンフロイデ(『ざまをみる』という感情)」の測定法の開発、「意味づけ」研究の発展と応用を視野に入れる。都会の人混みが苦手。高知大学の構内でカフェやキツツキの一種を見かけて感動した。



人文社会科学部人文社会科学科
(教育研究部人文社会科学系
人文社会科学部 准教授)

日比野 桂

静岡県出身。筑波大学第二学群人間学類卒業。博士(心理学)。筑波大学で1年間准研究員を務めたのち高知大学へ。長らく「怒り」をテーマに研究してきたが、次は「笑い」の心理を解き明かしたいと考える。「ジュピロ磐田」の本拠地出身で、JFLで闘っている「高知ユナイテッドSC」にも興味津々。



コロナに負けない！ 今、私たちにできること



地方創生推進士 それぞれの取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大の中、こんな時だからこそ何かできることはないかと動き出した地方創生推進士*の学生たちがいます。地方創生推進士育成に向けたカリキュラムの学びを活かし、SNSやウェブ会議システムなどITを駆使して進めた取り組みの軌跡を紹介します。

*地方創生推進士：高知県内の高等教育機関において、地域を支える人材育成を目指した教育プログラムを履修した学生に付与される称号

困っている学生の力になりたい！ その思いが活動に広がりを

コロナの影響で、今年の新入生は入学当初から遠隔授業になり、まったく大学に通えない状況でした。高知大学は県外から来る学生が多く、高知の魅力や講義の受け方など、先輩に教えてもらうことがとても多いのに、今年はそれがかなわない。なんとかしたいと始めたのが、ウェブ会議システム「Zoom」を使った1年生と先輩の交流の場としてのオンライン相談会です。平日の夜1時間、4月の間、毎日開催しました。

相談会の中で感じたのが、学生の生活の困窮です。全国的なニュースにもなりましたが、具体的なデータはありません。実態を探るために、地域協働学部の先生にも協力してもらい、全学部の学生を対象にオンラインアンケートを実施したところ、450人を超える学生から回答を得ました。そこから見えたのは、アルバイトの激減による経済的な困窮です。自由記述のコメントも、節約のために食費を抑えるなど切実なものでした。

そこで、バイト先として農業に着目しました。屋外での作業が主な農業は感染リスクが低く、しかも農家の多くが人手不足という問題を抱えています。学生にとっては“食”に関わるという貴重な経験ができるわけで、双方にメリットが生まれます。2人の仲間とともに、農家と大学生をマッチングするサービス「LET'S DESTINY」を開始しました。その名の通り、運命的な出会いをしよう！と呼びかけたんです。現在、10軒の農家とつながり、学生は80名ほどが登録し、ミカンやミョウガの収穫などで働いています。

サービスの立ち上げに当たっては、JA高知市にも説明に行きました。そこで大学生の窮状を理解していただき、米を寄付していただきました。届けられた5kg入り211袋の米は、すべて学生に配ることができました。

そのほかにも、Zoomで学生と県内企業の社長の交流の場を作るなど、いろいろやりました。考えたことを実行に移せるかどうかで人間変わってくると思うので、「とりあえずDO!」という思いでやっています。ただ、自分一人ではできなかったし、いろいろな人の助けをたくさんいただきました。高知の人の温かさ、バックアップのすばさをすごく感じる事ができた経験です。



コロナ下で苦境のスポーツ業界に 新しい応援のカタチを提案

スポーツに関わるのが大好きで、社会人サッカークラブのサポーターとして応援をしたり、プロ野球独立リーグ・四国アイランドリーグplusの高知ファイティングドッグス(FD)の球団事務所でインターンシップをしたりしています。しかし、コロナの流行によって無観客試合となり、厳しい状況に追い込まれていました。

そんな時、FDの関係者から私たち大学生に向けて段ボールを使って何かできないか考えてほしい、と依頼されたのです。そこでヒト型ボードを作り、観客席に並べてにぎやかな雰囲気を作ったらどうかと提案しました。ボードに貼る顔写真をSNSで募集をし、ボードの制作や球場への設置もしました。withコロナの時代、スポーツの新しい応援のカタチを作る必要を感じています。

知り合いのサポーターさんからの誘いというスポーツつながりで、高知の酒文化である「返杯」を模して青汁を飲み干す動画を投稿するオンラインイベントにも参加しました。せっかくなので1年生に高知の文化を体験してもらいたいと思い、LINEで募って16人の学生で一斉に青汁を飲み干したんですよ。Zoomと大学生と青汁を掛け合わせたことで、高知でしかできないことがやれたと思っています。

地域協働学部4年
野水 愛さん

新潟県出身。「青汁一斉返杯」は新聞で紹介されたこともあって、思った以上に話題になりました。「青汁の子」と呼ばれるようになりました。

①高知ファイティングドッグスのチームカラーの赤いユニホームと集まった顔写真を組み合わせヒト型ボードを制作 ②試合当日、人形ボードが応援席に座る高知市営球場 ③青汁片手にZoomの画面前に集まる学生達



就活の第一歩を踏み出すための オンライン合同企業説明会を開催

コロナ禍によって合同企業説明会が開かれず、就活をどうすればいいのか悩んでいる学生が高知県内にいることを聞き、県内の企業と学生が交流できるカフェを運営する団体と連携して、オンライン合同企業説明会を企画しました。これまでに説明会を3回、ほかに企業と学生、OB・OGと学生の交流の場をZoomで開催しました。

大切にしたのは、どういう気持ちで働いているのか、そもそも社会人とはどういう人なのかといった、働いている人のリアルが伝わるような場づくりです。参加した企業と学生からは、互いの本音を知ることができてよかった、というコメントを多くいただきました。

私個人では、オンライン落語にチャレンジしました。「落語部」という学生と社会人の落語愛好会に参加しているのですが、人前で落語を演じることができない状況。しかし、オンライン上ならば可能と思ったのです。その場で感想が聞けたのはオンラインならではのメリットでした。落語も含め、娯楽全般が自粛しなければならないような雰囲気の中、笑うことに集中できる時間を作れたことがうれしかったですね。

地域協働学部3年
檜山 諒さん

茨城県出身。「落語の高座名は古古家小梅(ここやこうめ)。古いものとカレーが好きで、出身地に梅の名所があることにちなみました」

①たくさんの学生が参加してくれたオンライン合同企業説明会 ②自分の部屋のノートパソコンの前が講座の舞台。本番に備えて、オンライン落語の演目を練習する檜山さん



オンラインのコミュニケーションでも信頼関係が結ぶることがわかりました

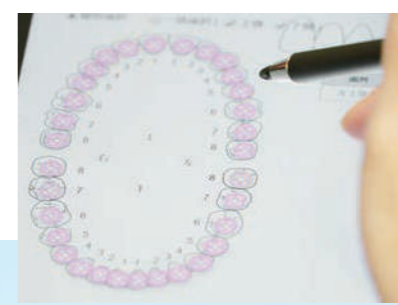
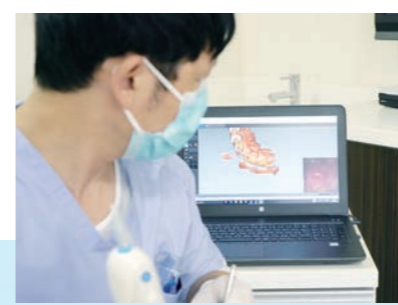
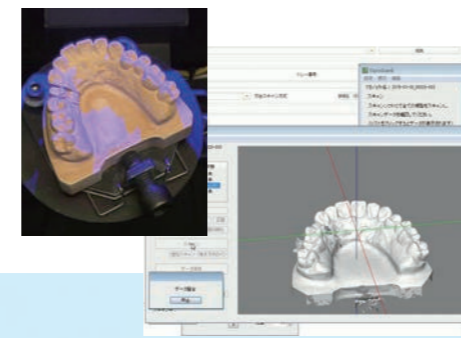
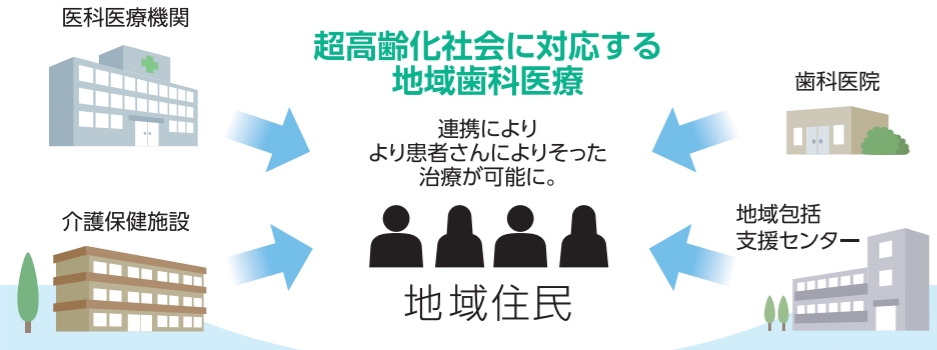
笑顔は、人から人へどんどん伝染するもの。もっと笑顔を広げたいという思いで交流しています

スポーツは心を豊かにし、夢や希望を与えてくれる存在です



歯科口腔外科学講座 × YAMAKIN株式会社 次世代歯科医療開発講座

高知大学医学部歯科口腔外科学講座は2020年3月1日、高知県に拠点を置くYAMAKIN株式会社との共同研究講座として、「次世代歯科医療開発講座」を開設しました。共同研究に取り組む山本哲也教授と、YAMAKINから特任准教授として参加している坂本猛さん、特任研究員の山下大輔さんに話を聞きました。



地域の歯科医療を悩ませる課題解消に向けて

企業や団体との共同研究講座は、高知大学では2例目になりますね。

●山本／共同研究講座とは、大学外の企業や団体からの資金や人材を受け入れ、対等な立場で共同研究を行う制度のことです。医学部では2018年、馬路村農業協同組合とユズの機能性に関する共同研究講座を初めて設けました。今回はYAMAKINと共同で、2025年2月末まで5年間、研究を行います。この取り組みのなかには、高知県の補助金に採択されている研究も含まれています。あくまでも研究の場であって、学部生は参加しない取り組みです。

●坂本／弊社は香南市に生産拠点を置く総合歯科材料メーカーで、以前から自社商品の生物学的安全性に関する検査を高知大学に行っていたのですが、今回の共同研究は、我々が新しいデジタル技工を開発するなか、山本教授と共同して研究室を設け、地域医療に貢献するための拠点をしたい、ということからスタートしました。

こうした歯科医院と歯科技工所とのやり取りのなかに、何か問題点は？

●山本／じつは、歯科医師と歯科技工士との連絡は、すべて手書きの指示書で行っているんです。しかも、指示するのに必要な項目は決まっていますが、文書としての定められたフォーマットは特にありません。そのため、発注のやり取りにかなりの手間がかかるんです。こうした無駄をなくすために、一連の流れをデジタル化し、どのケースでも同じフォーマットで行えるようにしたいと考えています。

●坂本／同じ歯科医院のなかなら、こうした仕事のやり方をして、それほど問題はないかもしれません。しかし、実際には院外にある歯科技工所とのやり取りがほとんどなので、歯科技工士は指示書の受け取り、治療の打ち合わせ、歯型に合わせた模型や完成した技工物の受け渡しなどのため、歯科医院との間を何往復もしているんです。これらの流れをデジタル化してデータでやり取りすれば、最終的な技工物を受け渡すだけで済むはずなんです。特に現在の「ウイズコロナ」の状況を考えると、外出はできるだけ少ないほうがいいでしょう。

開発した仕組みを高知の歯科医療のモデルに

デジタル化はどのように進めるのでしょうか。

●山下／まず取り組んでいるのが、歯科医療に関する情報を管理し、最適化する歯科医療マネジメントシステムの構築です。弊社では以前から、社内のシステム開発でSE(システムエンジニア)部隊が対応してきました。こうして培った技術と経験をオープンに展開し、ICT

共同研究の目的は何でしょう。

●山本／歯科医療を支えている歯科技工士について、かつては自院で雇用する歯科医院が多くみられました。しかし、こうした歯科医院は少なくなり、いまでは多くの場合、個人が経営する歯科技工所に発注しています。今回の共同研究では、こうした現場のニーズに対応して、生産性を向上できる仕組みを構築し、歯科医療従事者の負担を軽減することを目指しています。

●坂本／地域の歯科医院からさまざまな要望が寄せられるなか、近年は歯科技工士の確保が難しくなり、地域医療の崩壊の危機が近づいていることがわかりました。じつは高知県の歯科技工士は平均年齢が高く、60歳を超えています。しかも、歯科技工所は高知市などの都市部に集中しており、郡部には本当に少ないです。これでは10年もたずに、適切な歯科医療サービスが受けられなくなってしまうんです。地域医療を守るには、早急に作業効率の改善が必要です。

デジタル技術を駆使して、作業効率の大幅アップへ

歯科医院と歯科技工所のやり取りのなかでは、どんな課題がありますか。

●山本／まずは歯科医院と歯科技工所とのやり取りをデジタル化し、作業効率を高めることが重要です。歯科医院では歯の悪いところを削ったあと、セラミックなどをかぶせる治療を行います。作業の流れとしては、削ったところの型を歯科技工士が受け取り、その型を使ってかぶせるものを作り、完成品を歯科技工所に納品する仕組みです。一般の歯科技工所だけではなく、高知大学医学部附属病院で行う治療でも、ケースによっては院外の歯科技工所に発注しています。



(情報通信技術)もからめて、地域の歯科医療をサポートするサービスを構築していきます。具体的には、指示情報や口腔内の写真、CT画像、口腔内スキャナによるデータなどをインターネット経由でクラウドにアップして一元管理し、歯科技工所や歯科技工所が必要ときに取り出せる仕組みにします。

デジタル化に当たってのポイントは？

●山下／現場のニーズを拾い上げて、細やかに対応することが大事です。歯科技工士は平均年齢が高く、パソコンの使用にあまり積極的でない人も多いため、いかに操作をシンプルにするかということが重点を置いています。

こうした取り組みは他でも行われているのでしょうか。

●山本／インプラントなどの治療費の高額保険外診療については、デジタル化がある程度進んでいます。しかし、一般の歯科医療では費用対効果の問題で行われてい

ません。今回の共同研究は、企業の収益とは関係なく、地域医療を守るためのものです。これからのように研究を進めていきますか。

●山下／最初の2年間が開発研究で、残り3年間が普及させるための期間になります。情報をただ蓄積するだけではなく、最新のIT技術を応用し、データを二次活用できるサービス展開に取り組んでいきます。

●坂本／高知県の歯科業界と地域医療を守るために必要なシステムを作りたいと思っています。この共同研究で生み出したシステムを、将来的には高知発の課題解決モデルにしたいですね。

YAMAKIN 株式会社
医学部次世代歯科医療開発講座
特任研究員
山下 大輔 さん
高知県出身。高知職業能力開発短期大学校(ポリテクカレッジ高知)、四国職業能力開発大学校(ポリテクカレッジ)卒業。システムエンジニアとして経験を積み、YAMAKINに入社してシステム開発などを担当。共同研究ではICT開発などを担当する。

YAMAKIN 株式会社
医学部次世代歯科医療開発講座
特任准教授
坂本 猛 さん
東京都出身。東京理科大学理学部卒業、北海道大学院博士課程修了。博士(薬学)。専門は有機金属化学。YAMAKINでは研究のマネジメントや事業のネットワーク化、啓蒙活動などを担当。共同研究では事業計画などを担当する。

高知大学
医学部医学部歯科口腔外科学講座
(教育研究部医療学系臨床医学部門 教授)
山本 哲也
高知県出身。徳島大学歯学部卒業。博士(医学)。高知医科大学(現・高知大学医学部)附属病院に赴任後、大月町での歯科医療、米国ジョージア医科大学留学なども経験。専門は口腔外科。共同研究では医学部附属病院での臨床データの収集、整理などを担当する。

がんばる！先輩

社会で活躍するOB・OGを紹介

あつかんDRAGON

おだち(左) しんじょう(右)
小田 雄介(30歳) **新城 貴大**(27歳)
 理学部理学科 2015年卒業 人文学部国際社会コミュニケーション学科 2017年卒業

大好きな高知で熱〜くお笑いやってます!

●しんじょう／僕が1年で寮を出たこともあって、ほとんど接点はありませんでした。コンビ結成は、僕が大学3年生の時、おだちが店長を務める

●私も含め、3人も高知大学の男子寮「南溪寮」に同時期に入っていたのですが、2人が一緒にいた印象がありません。

●しんじょう／親に言われて育ったことが根幹にあつて、ともかくいろいろな経験をしながら、何かしら行きたい方向を見つけられれば良いと模索していました。カナダでワーキングホリデーも経験しました。



あつかんDRAGON

2016年結成のお笑いコンビ。坂本龍馬の「龍」の字を取ったコンビ名で、高知県内を拠点に活動。テレビ番組のリポーターやラジオのメインパーソナリティとしても活躍している。YouTubeチャンネル「あつかんDRAGON TV」で情報を発信中。

小田 雄介(左)

長崎県出身。つっこみとネタ作り担当。高知大学在学中、ビジネスコンテストで500万円の投資を受け、オンライン合コンサービスを開発して起業もしている。

新城 貴大(右)

沖縄県出身。ほけ担当。eスポーツウイングイレブンで、高知県代表として国体に出場。YouTubeでゲームの実況をするなど、eスポーツの魅力も紹介している。



同じくOBの高知大学広報係・林が聞きました!

高知大学では、どのような学生生活を送っていましたか?

高知大学 総務部総務課広報係 林和磨

理学部応用理学科 2013年卒業
 大阪府出身。理学部応用理学科卒業。南溪寮で大学生活を過ごし、寮長を務めたこともある。おだちさんとは寮の同期生。市役所勤務ののち、2019年、母校、高知大学に着任。総務部総務課広報係として勤務する。「寮生活についても聞きたかったのですが、エピソードが盛りたくさんで…」

●おだち／部活は少林寺拳法部でしたがそれ以外にも面白そうなどころにはどこにも行っていません。誰でもウェルカムで迎え入れる雰囲気が高知にはあって、それは高知の風土がそうだからではないでしょうか。授業も専門分野はもちろん意外な講義が面白かったり。毎日が全然知らないことの連続で、多くの出会いがあった学生時代でした。

●しんじょう／結婚式の後、おだちに「また、やりましょう」と声をかけたんです。結果、僕がお笑い芸人の道に誘ったことになりました。機会があればという軽い気持ちで、仕事にするつもりはさらさらなかったのですが。

●おだち／当時、大学生の時に起業した会社の業績が鳴かず飛ばずで休職させた時で、そのうえ大失恋もした傷心の身だったんです。もともととお笑いの道に進みたいという思いがあったので、しんじょうの言葉に乗って、後は強引にプロへと道連れにしました。

大学生生活のアドバイス。

●おだち／専門分野の研究をするうちに、時には心が折れることがあると思う。これが将来の職業に何の関係があるのか?でも、仮定と検証のトライアンドエラーを繰り返す研究は、仕事にも通じることです。大学の学びは、その後の人生にきつと生かすことができます。

●しんじょう／よく大学時代はモラトリアムの期間といわれますが、ふらふら(つと)過(す)すのはもったいない。特に高知大学は、全国から集まったいろいろな人と会えるので、自分の考えをしっかりと持たうえて目標を持った時間の過ごし方をするといいと思います。僕は正直、そういう大学生活は送らなかつたので、今、すこく後悔しています。

男女が共に生き生きと輝くために 実践を研究・教育に生かし 社会に発信!



男女共同参画推進室
しあわせぶんとん

大学から地域へ広げる男女共同参画の実り

男性も女性も性別にとらわれず、一人ひとりが持っている個性や能力を発揮できる、「男女共同参画社会」。その実現を目指し、高知大学では2012年、男女共同参画推進室(以下・推進室)を設立しました。

「推進室は企業でいえば人事課や総務課のように、男女共同参画推進のための実践的な作業を担います。ただし、違うのは大学の中に設置されているということ。男女共同参画関連の教育研究を行うとともに、その成果を地域に発信するという役割も担うのは大学ならではのでしょう」と男女共同参画推進室長の廣瀬淳一先生が説明します。

推進室では教職員に向けて、男女共同参画やワークライフバランスがテーマのセミナーを開催。また、「男女共同参画支援ステーション」を推進室内に設置し、女性研究者支援のための支援制度の充実などを図ってきました。学生に対しては男女共同参画に関する独自の講義を行うほか、「グローバル社会論」など廣瀬先生が行う通常の講義の中でも男女共同参画のテーマを取り入れています。

「男女共同参画というのは、非常に概念的、理論的な領域であるとともに、私たち誰もが日常的にかかわる問題でもあります。理論ではわかっていても、感情や無意識のうちに持っている男女差によって生じる偏り(ジェンダーバイアス)のために実践につながりにくいことが、男女共同参画社会実現の壁になっています。そのため、セミナーや制度の整備などでは理論を押し

付けるのではなく、納得を得られるよう現場から少しずつ進めていくという方針でやってきました」

7年を超える取り組みの中で、本音で議論しあえる交流が生まれてくるようになったそうです。このような大学教職員の男女共同参画の実践者としての取り組みは、さらに地域へとつながっています。

「昨年、県内のある自治体からの依頼で、町民の幸福度を測るアンケート調査を行いました。その中で、男女共同参画や働き方について幸福度という尺度を入れた質問項目を盛り込んだのですが、次世代への関心と幸福度との関連性など興味深いデータが集まりました。これらを分析し、学術レベルまで高めることで、ほかの地域への応用も可能になると考えています。また、公益財団法人が運営する『こうち男女共同参画センターソール』と連携し、毎年、集中講義などを共催しています」

多様性が求められる昨今、さらにコロナ禍において働き方の改革が迫られ、推進室が担う役割は大きく広がっています。そのような状況の中でも、廣瀬先生は楽しんで取り組むのがモットーと話します。

「推進室の愛称は、「しあわせぶんとん」。役割分担というネガティブなイメージも含んでいるので、幸せを分担しようと。それぞれの人がやりたいことができるように、互いにサポートしあえるようになればいいな、という思いで名づけました。高知らしい名前がいいでしょう」「しあわせぶんとん」が大きく実るよう、推進室の取り組みはこれからも続きます。



男女共同参画キャリアデザイン

安全・安心機構
 男女共同参画推進室
 室長
 (教育研究部総合科学系
 地域協働教育部門
 准教授)



ひろせ じゅんいち
廣瀬 淳一

千葉県出身。立教大学文学部卒業。神戸大学大学院国際協力研究科単位取得満期退学。修士(国際学)。2012年に高知大学に着任前は、JICAの企画調査員として、アフリカ・ザンビアで活動。「ザンビアでやった異文化間での調整経験が、推進室の取り組みに生かされています」

研究と支援の両輪による取り組み

「男女共同参画支援ステーション」は2012年度に設置され、女性研究者の研究活動を支援する業務を行っています。Vita-min(the Station for Vitalizing Your Challenging Mind)という愛称があり、しあわせぶんとんのビタミンとして、チャレンジする人のキャリアを応援しています。相談コーナーを設置して研究職のキャリアや家事と仕事の両立などについての相談対応を行うほか、研究支援員制度や一時託児など支援のための制度設計を行って学内の環境整備に取り組み、研究者の育成と支援を行ってきました。

女性リーダーシップをとる機会や学ぶ経験が少ないことから、女性がリーダーシップを磨くセミナーを実施してきました。教職員の要望から育休セミナーを企画したりと、現場の声や相談をもとにして男性も女性も働きやすい制度の設計を行っています。

教育・研究分野に重点を置いている「男女共同参画社会を考える」講義では、代表担当の私を含め、複数の先生とともに男女機会均等やジェンダー公正について考えていきます。私が担当する人文社会科学部専門科目の「男女共同参画の哲学」では性差の思想史を扱い、哲学史の中で女性/男性が、感性/理性に二分されてきた歴史を検討します。人文社会科学部のゼミでは、女性や黒人に大学入学や就職が優先的に措置される積極的は正措置の是非をめぐって学生たちと議論しています。このような教育によって、学生の皆さんが社会に出たときに、性別にとらわ

れずに何をやりたいのか、どう生きたいのかを考えるために意義があります。

ジェンダー平等を新たな学問分野として確立することに取り組み、哲学分野の取り組みを科研費によって研究成果報告したり、学術雑誌『理想』の男女共同参画特集号を企画してミソジニー(女性嫌い)の構造を研究したりしました。哲学分野が中心となり、人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)設立にも携わりました。特に人文社会系の女性は大学院修了者比率は4割を超えるにもかかわらず、大学教員比率は3割程度であり、非常勤等不安定な雇用環境の中でハラスメントに晒されています。背景には、教育研究環境での無意識のバイアスがあり、このような現状について、政府に対して要望提出を行ってきました。

男女共同参画を実現するためには、無意識のジェンダーバイアスが存在することへの理解を一般に広めていく必要があります。研究は歴史世界と競争する孤独な取組であり、研究者は生きていく中で個人的なあらゆる生活場面と葛藤して苦しみながらその成果を醸成していきます。私の専門とする近代ドイツの哲学者ヘーゲルは、現実と理想世界との分裂や矛盾を露呈させて、例えば、周縁にある女性だからこそ見ることのできる真実をイコニー(皮肉)的な視点で暴露させていきます。これからも研究のあるべき理論と、女性研究者が生きていくために必要な支援という実践との亀裂や矛盾を統合しながら取り組みを進めていきます。

男女共同参画支援ステーション

Vita-min
 the Station for Vitalizing Your Challenging Mind



研究職を目指す学生のためのキャリアワークショップ

安全・安心機構
 男女共同参画推進室
 男女共同参画支援
 ステーション長
 (教育研究部人文社会科学系
 人文社会科学部門
 准教授)



こじま ゆうこ
小島 優子

神奈川県出身。東京大学大学院人文社会科学部研究科修士、上智大学大学院哲学研究科博士修了。博士(哲学)。2012年、高知大学に着任。日本学術会議連携会員(第25期・26期)。「日本学術会議を通じて政府に提言を行いつつ世論啓発すること、ジェンダー平等の実現に携わっていきます」

Internet of Plants (IoP) の挑戦 ～施設園芸のボトムアップ イノベーションを目指して～

農林海洋学部特任教授 北野 雅治

農業は、季節や天候等の環境に左右される作物の生理生態(図1:光合成、蒸散、栄養成長、生殖成長など)に全面的に依存し、光合成産物を利用する「モノづくり産業」ともいえます。全ての営農作業が、作物の生理生態を最適化するための作業といっても過言ではありません。農家の営農現場では、環境情報(日射、気温、湿度、CO2濃度)の可視化は普及しつつありますが、製造工程ともいえる作物の生理生態の時々刻々の変動は、営農現場での実測が困難なために、農家の日々の営農において未だかつて定量的な可視化が実現されていません。一方、工場でおこなわれる製造工業では、製造工程が完全に可視化され、経営者や技術者の創意工夫やICT、AI等のハイテクによって自在の効率化(最適制御、自動化等)が進められています。

そこで、営農現場での作物生理生態の時系列情報(過去、現在、未来)の可視化、機能化、共有化を可能にする仕組みとして「Internet of Plants (IoP)」の概念(図2)を3年前に提唱し、その社会実装を高知県の施設園芸を目指す大型プロジェクト「IoP (Internet of Plants)」が導くNext次世代型施設園芸農業への進化が、内閣府の地方大学・地域産業創生交付金の交付対象事業に採択され2年が経過しようとしています。

高知の施設園芸を土地生産性日本一に導いた高知県や高知大学の積年の協力が高く評価されて、全国でわずか7件の採択件数の中で、農業分野で唯一の採択でした。

IoPにおいては、図2に示すように、作物生理生態AIエンジンと営農支援AIエンジンが駆動するIoPクラウドを介して、作物生理生態情報の可視化、機能化、共有化が



写真1: ナスの株当たり光合成の実測用大型チャンバシステムと筆者

実現され、AIエンジンからの情報を駆使するスマートな農家群の創意工夫によって、作物の生理生態に基づく合理的な営農管理、労務管理、生産調整等が可能となり、天候、需要、需給関係等の変化に柔軟に対応できる四定生産(定時、定量、定品質、定価格)をめざした営農が実現することが期待されます。

作物生理生態AIエンジンにおいては、多様な理論的モデル群(個葉光合成の生化学的機構モデル等)、AI画像認識技術等を駆使することによって、作物生理生態に関する説明性の高い情報群を創出し、説明性の高い少量の学習情報で効果的に機能する新規のHybrid AI model等を世界で初めて構築し、写真1のような大型のチャンバ等を用いた実測によって検証を進めています。また、作物の栄養成長、開花数、着果数、果実肥大、収量等の成長・収穫関連の時系列情報の可視化を実現する作物生理生態AIエンジンのプロトタイプの開発を進めています。さらにこれらの情報を用いて、次年度からは、作物生理生態に基づく合理的な営農支援(成長・収穫予測、環境最適化、生産調整、分散施設統合管理、営農技術の診断と改善等)情報の提供を可能にする営農支援AIエンジンのプロトタイプの開発を進める予定です。

IoPクラウドを活用するNext次世代の農家群のスマート化と創意工夫によって、図3に示すようなボトムアップのイノベーションが、従来のトップダウンの施策や支援等と連動して、高知県の施設園芸農業の自律的進化をもたらすことが期待されています。

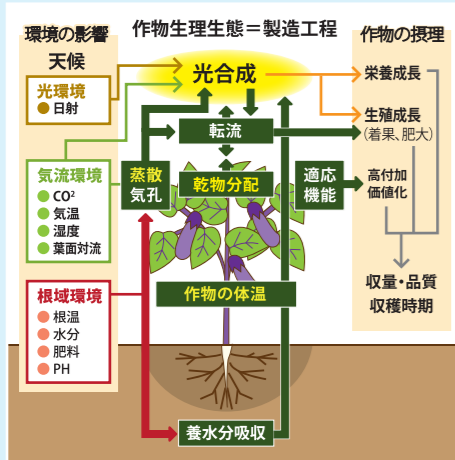


図1. 農業生産を決定づける作物の生理生態

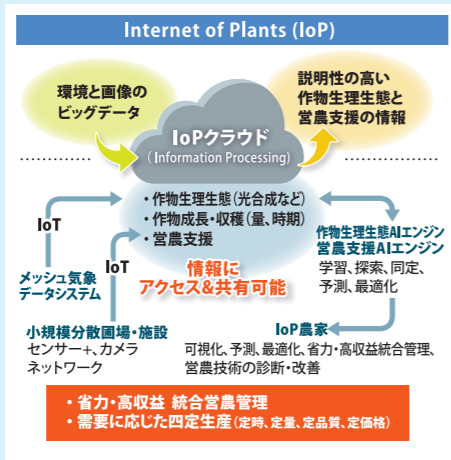


図2. Internet of Plants (IoP) の概念

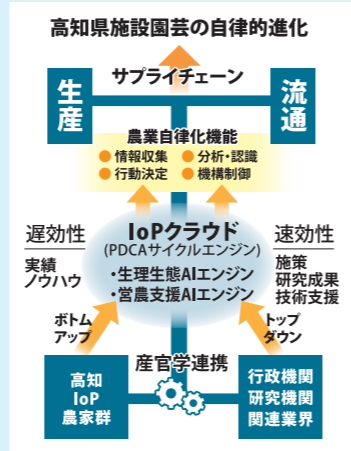


図3. IoPによるボトムアップイノベーションの駆動と高知県施設園芸農業の自律的進化

高知大学はSDGsに貢献します!

報告書&ホームページ「Kochi University SDGs Action」にて取組等を紹介しています。

令和2年3月、本学初となるSDGs報告書『Kochi University SDGs Action』を発行しました。また、同年8月には同報告書の内容を中心としたSDGs特設ホームページも開設しました。報告書およびホームページは右下の二次元バーコード(高知大学公式ホームページ「高知大学×SDGs」)よりご覧いただけます。

『Kochi University SDGs Action』とは、「持続可能な世界を実現する」ための国際目標(SDGs: Sustainable Development Goals)の達成に向けて、高知大学として、本学の多岐にわたる教育研究活動等を通じて貢献していくプロセスを取り纏めたものです。

本学におけるSDGsへの貢献に対する方針や、研究活動とSDGsとの関連分析、SDGs取組事例集などで構成されています。

特に「SDGs取組事例集」では、本学の最新の教育研究活動等に伴い、SDGs達成に貢献していく、1~17の目標に対応した101件の取組をご紹介します。

本学のSDGs達成に向けた挑戦をぜひご覧ください。

17の持続可能な開発目標



高知大学「SDGs取組事例」



SDGsとは

SDGsは、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)の略称で、2030年に向けて、世界全体が経済・社会・環境をめぐる様々な課題に共に取り組む普遍的な目標として、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択されたものです。

SDGsは、世界中の人々が17の目標に向かって共に歩んでいく過程において、「誰一人取り残さない」ことを宣言しています。

参考: 外務省ホームページ「SDGsとは」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

スマホからはこちら



高知大学公式ホームページ
「高知大学×SDGs」
詳しい内容はこちらから
ご覧いただけます



「Kochi University SDGs Action」報告書およびホームページ

新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援(募金)のお願いについて

高知大学では、これまでも多くの皆様からご寄附を賜っていましたが、今回の新型コロナウイルス対応を含んだ幅広い学生支援のために、より一層のお力添えを賜りたく、ここに募金をお願いする次第です。この難局を乗り越えられますように、皆さまの温かいご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

「高知大学さきかけ志金」及び「高知大学修学支援基金」に寄附を行う際は、インターネット決済サービスによる「クレジットカード決済」、「コンビニ決済」、「Pay-easy決済」がご利用いただけます。

〈お問い合わせ先〉高知大学総務部総務課 TEL:088-844-8100 FAX:088-844-8738
E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp URL:http://www.kochi-u.ac.jp/

詳しくは、大学のホームページをご覧ください。

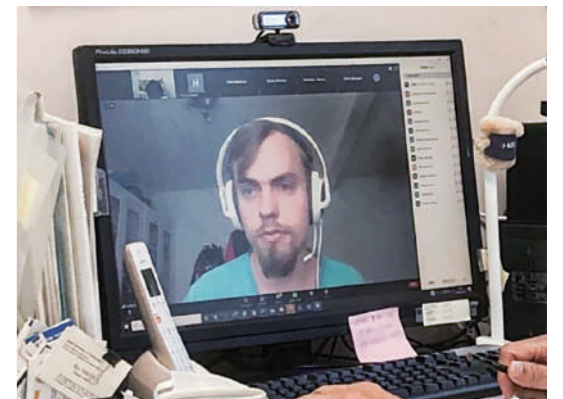


留学を希望する高知大生と欧州学生がオンライン交流

7月31日、留学を計画している高知大生と高知大学に留学希望だったヨーロッパの協定校に在籍する学生が、留学への思いをお互いに交換し、留学へのモチベーションを保つことを目的に、英語でオンライン交流を行いました。この交流プログラムは、土佐さきがけプログラム国際人材育成コースの授業の一環として行ったもので、高知大学側は同コースの2年生7人、ヨーロッパ側はチェコ1人、スウェーデン1人、ノルウェー4人の合計6人が参加し、国際連携推進センターの新納教授がファシリテーターを務めました。

「新型コロナウイルス禍で留学、学習、生活がどう変わってきているか」をテーマに、まず、新納教授から世界的な新型コロナウイルス第二波の来襲および日本や高知県の感染状況の説明があった後、学生が互いに自分の周辺のコミュニティの状況や自身の学習状況、生活状況について写真や動画を使って紹介し、意見交換を行いました。

それぞれの発表から、ヨーロッパも日本も、大学の授業はオンラインが主流であること、ほとんどの時間を自宅で過ごしていることなどは共通していることがわかり、有益な自宅での過ごし方としては、自作ゲームの開発やミニコンサートの開催、写真のコラージュなど新しいことへの挑戦といった報告がある一方、やはり友人とずっと会いたいという声も多く聞かれました。



ネット交流の様子

2021年度 高知大学入試案内

学校推薦型選抜Ⅰ(出願期間)

2020年11月9日(月)～13日(金)

人 教 (教育科学・教科教育・特別支援教育・保健体育教育)
理 (数学物理学科を除く) **医** (看護)
農 (暖地農学、森林科学、生産環境管理学) **地**

人 人文社会科学部
教 教育学部
理 理工学部
医 医学部
農 農林海洋科学部
地 地域協働学部

学校推薦型選抜Ⅱ(出願期間)

2020年11月9日(月)～13日(金) 2021年1月18日(月)～22日(金)

理 (数学物理学科)**数** (科学技術者教育を除く) **農**

2020年11月24日(火)～30日(月)

医 (医)

2020年12月7日(月)～11日(金)

人 (社会科学コース)

一般選抜 前期日程・後期日程(出願期間)

2021年1月25日(月)～2月5日(金)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、試験日・試験実施方法などを変更する場合があります。変更する場合は高知大学ホームページに掲載します。

■高知大学のラジオコーナー

高知大学の教育・研究・地域貢献等の情報を毎月第4金曜日10時15分からお届けしています。ラジオ視聴用アプリ「radiko」をダウンロードしていただくと、FM高知の放送が、スマホやパソコンで全国各地でも視聴していただけます。



※写真はイメージです。

FM 高知 81.6MHz
「Monthly 高知大学」
【毎月】第4金曜日 10時15分～



ラジオ視聴アプリ
「radiko」でも
 視聴できます。

放送中

■高知大学古本募金

読み終わった本で高知大学をご支援ください。高知大学古本募金は、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が高知大学に寄附される取組です。古本募金を通じて集まった寄附金は「高知大学さきがけ志金」として受け入れ、本学の教育研究・社会貢献活動の向上のために役立てられます。

本・DVD
 ↓ 配送 ↓ 5冊以上で 送料無料
古本募金
きしゃぼん
 ↓ 査定・寄附 ↓ 査定額+100円を 大学へ寄附
大学

〈お問い合わせ先〉

☎0120-29-7000

(受付 9:00～18:00)

高知大学古本募金 検索

運営協賛
古本募金きしゃぼん(嵯峨野株式会社)

■広報誌Lead 2020 秋号アンケートご協力をお願い

アンケートに
 ご協力いただいた方の中から
**抽選で5名の方に高知大学
 オリジナルグッズをプレゼント!**

※当選者の発表は賞品の発送をもって
 かえさせていただきます。
 回答期限: 令和3年3月末

右記の
 2次元バーコードを
 読み込み表示された
 アンケート画面にて
 ご回答ください。



新型コロナウイルスに対する本学の対応については、
 大学ホームページのトップページ「重要なお知らせ」に最新情報を
 掲載していますので、ご覧ください。

●お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学
 Kochi University

高知大学総務課

高知大学 検索

http://www.kochi-u.ac.jp/

バックナンバーは
こちらから
ご覧いただけます。

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

※誌面の学年と役職は制作時のものです。